

3-5 弥生集落の変遷と中世館跡

この築地館跡の発掘調査では、弥生時代後期の集落及び中世館跡が検出された。

いずれも集落の一部、館跡の極く一部が調査されたに過ぎない。しかし、弥生時代後期の集落を構成する条溝、竪穴住居等の各要素を4段階に時期区分して捉えることができるため、弥生時代後期の集落像を示すことができる内容である。また、中世館跡は、その壕の最下層検出試料を用いた放射性炭素14年代測定から、形態が酷似する弥生時代の条溝ではなく、中世の遺構であると確認できるものである。

3-5-1 弥生集落の変遷

築地館跡には弥生時代後期に条溝を備えた集落が営まれている。この集落は小岱山山麓から伸びる台地上に位置し、その東西は迫地形から伸びる支谷で画されている。すなわち、舌状台地の山麓側基部に集落は位置し、有明海に南面し、東には緩斜面を経て菊池川に接続している。

今次調査では側溝を備えた条溝1条、竪穴住居24棟等が確認されたが、これは集落の一部に過ぎず、全体では100棟単位の規模となる弥生集落と推測することができる。

築地館跡で集落の造営が確認できるのは野部田Ⅰ式の時期であり、弥生時代後期前葉と考えられる。集落の存在は野部田Ⅱb式の時期まで確認することができ、弥生時代後期後葉まで営まれたと考えられる。この期間は4段階に時期区分することができ、集落の構造的変遷を追うことができる。なお、条溝の存続時期を限ることができなかったため、全時期存続したものとしている。

1段階には、3棟の竪穴住居が造営される。この時期から標高が高い東側、低い西側の双方の地区に竪穴住居が位置している。

2段階には、6棟の竪穴住居が造営される。西側の2棟は、条溝からの距離を同じくしているため、この時期に条溝が掘削された可能性がある。東側には4棟の竪穴住居が散在している。東西を比較すれば、東側の地区に集落の中心が形成されはじめたと理解することができる。条溝の掘削、集落中心部の形成は、集落が伸長する段階を迎えていることを示唆する。

3段階には、12棟の竪穴住居が造営される。これは各段階をつうじて最大数であり、切合関係をもつ竪穴住居群も認められる。この段階において、集落は条溝を境として2分化される。条溝の南側には竪穴住居1棟が位置するのみであり、集落は条溝の北側に収まっ

た状況となっている。なお、条溝の南側のSI05には3基の小型炉が営まれており、鍛冶工房となる可能性が高い。その位置は条溝が途切れる直前の条溝屈曲点に面しており、集落の出入口に近い。集落の縁辺部に鍛冶遺構が位置し、遷移する二子塚遺跡例（島津・村上1992）に類似した構造と捉えることができよう。なお、集落の東側では一定の間隔を保って竪穴住居が造営され、広場とも理解できうる空間が生じている。また、竪穴住居の規格にも変化が生じている。ベッド状遺構をもつ竪穴住居は、大小の2種類に分化する。さらに、3段階において切合関係をもつ竪穴住居は、正方形プラン、4本柱建てでベッド状遺構を備えないといった点が共通する。これらの特徴は、特定箇所に反復造営された特定施設の存在を肯定し、竪穴住居の規模と構造の差異が、建物の用途とその担い手の分化を示唆しているものと考えられる。以上のとおり、3段階には集落の規模、構造、機能が膨張しており、集落が隆盛している段階と捉えることができる。

4段階には、2棟の竪穴住居が造営される。集落の東側に位置するSI20とSI33は、3段階と同様の間隔を保って造営されている。竪穴住居の規模の差異も存在し、その位置も条溝の北側を堅守している。すなわち、数が減じたこと以外は前段階と同様である、と評価することができる。集落が衰退する段階でも、その構造と機能は維持されていたのである。

3-5-2 中世館跡の認定

築地館跡は、丘陵上に方形に巡る溝、残存した土塁等を根拠として、中世館跡として認識されている。平成15年度に玉名市が実施した確認調査では中世の土器片が表採されている（末永2006）。

今次調査では条溝1条、掘立柱建物1棟が確認されたが、これは館跡の極く一部に過ぎない。上記の方形壕跡とその周囲が館跡である。なお、掘立柱建

物 SB01 は、弥生時代後期の条溝を切っていることから、条溝 SD05 は放射性炭素年代測定の結果（540 ± 20yrBP）から、中世の遺構であると確認している。SD05 からは弥生土器が出土しているが、その出土量は弥生時代の条溝 SD01 に比して著しく少量であり、居館造営以後、その壕に包含された上古の遺物と結論できる。

（参考文献）

- 島津義昭・村上恭通 1992 『二子塚』 熊本県文化財調査報告 117、熊本県教育委員会
- 末永崇 2006 「16 築地館跡」『玉名市内遺跡調査報告書』
Ⅲ、玉名市文化財調査報告 15、玉名市教育委員会

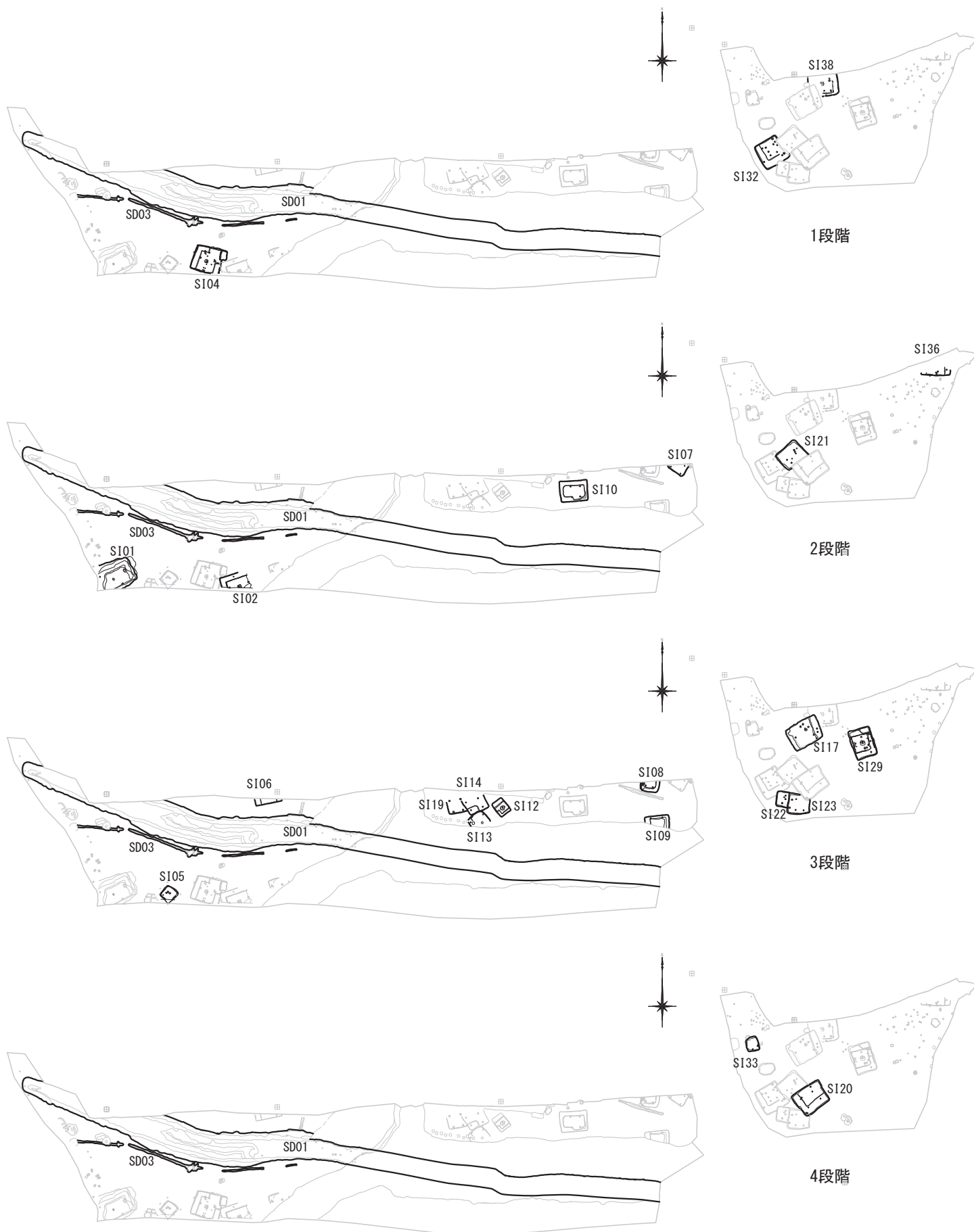


図 182 弥生集落の変遷図 (1/1100)